



FÛ EN  
楓園

CONTENTS

- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1 — 特集 大学 大学院 学びの現場の今        | 12 — 行事報告 6月～8月     |
| 8 — この人に聞く 杉本香七              | 13 — 学院 NEWS・史料室レター |
| 9 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS | 14 — 聖書の言葉・英和探訪     |
| 10 — 小学部 NEWS                | 15 — 英和の植物通信・お知らせ   |
| 11 — 中高部 NEWS                |                     |



■大学 クリスマス礼拝

在学生、教職員、地域の方々と共にイエス・キリストの誕生をお祝いします。

—基礎からさらなる広がりまで、皆が学んでいける場を目指して—

昔のように一律の基礎学力が求められない日本の現状の中で、大学では今までとはちがったアプローチが必要とされています。今回の楓園では英和ならではの学びをお伝えいたします。

人差もありますから、学生の自学自習が欠かせません。そのとき、数学の問題がどうしても解けない、文章表現力を高めたい、などという人には個別指導が有効です。また、学生同士の教え合いも有効です。さらに、自主学习を計画的に実践するには、期限を切って具体的に目標を設定できる能力検定試験を活用することも良い方法です。こうした学習を支援する「場」として、本学ではスタディカフェを開設しています。

スタディカフェはその名の通り、勉強に疲れたら自由にお茶も飲める、アットホームな学習支援室です。学習支援スタッフとして、総勢13名のスタディコンサルタントと3名のOGメイトがいます。スタディコンサルタントは、数学、英語、日本語表現について各教科1名が毎日出勤して個別指導を行うほか、TOEICの受検指導や英語の発音講習会も開催しています。また、本学の教員とともに英和生に合ったオリジナルの演習問題集も作っています。スタディコンサルタントのうち8名が英和の高等部と大学の元教員や卒業生です。OGメイトは文字通り本学の卒業生で、個別指導の環境整備や能力検定の実施業務、学生への対応に当たっています。

能力検定の受検支援としては、「ニュース検定」「TOEIC IP」「数学検定」「漢字検定」を学内で定期的に受検できるようにしています。ニュース検定はこれまでに4回実施し、3人の1級合格者を出したことなどが評価されて、ニュース検定協会から「団体賞」を受賞し

ています。

スタディカフェではこれらの学習支援のほかに、図書館の司書と学生有志による読書会の開催や留学生による英会話指導もしています。

スタディカフェの個別指導を受けながら自学自習に励み、見事に希望の職を得たAさんは、「毎日のように通い、特に数学はたくさん質問しました。私が不安な顔をしているといつも声をかけてくださいました。どれだけ心強かったことか。私にとってスタディカフェは心の支えとなっていました」という言葉を残して卒業していきました。また、日本語表現の指導を受けている在校生は、「文章は一人では書かないけれど、ここでなら楽しく続けられる」「友人や両親とはまた違う人生の先輩と話すことで人間として成長できた」などと話しています。

他大学にはないこうした環境が、少しでも多くの学生に活用されるよう願っています。



個別指導の風景。右側は数学（中村先生）、左側は英語（柴田先生）



日本語表現のトレーニングに励む学生たち

## 2. 読書をする習慣をつける

読書については、1年間で52冊の本を読むことを目標とさせました。2009年度の人間科学科2～4年生にアンケートを取り、1年時に読むべき本を推薦してもらい、その推薦図書と、市販されている読書推奨本から選定して約1000冊の推奨図書リストを作成しました。そのリストを専用の携帯サイトに掲載し、読書記録をそこに残せるようにしました。その結果、1年間に平均で25冊、学生が読書記録を行い、もっとも多い学生で92冊の記録を残しました。読書をする習慣が、着実に身についてきているといえるでしょう。

## 3. 新聞を読む習慣をつける

学生アンケートによると、自宅で新聞を購読している家庭は3分の2。しかし、実際には多くの学生は新聞を読む習慣がないようです。そこで、授業内ではただ黙々と新聞を読む段階、内容を要約する段階、タイトルを考える段階など、段階を踏んで授業を展開しました。本学で2009年度からスタートしたニュース検定の学内受検の結果、人間科学科が大変高い成績を残していることは、本授業と関連性があるかもしれません。

## 4. 地理に詳しくなる

「日本国内の県の所在地や、世界の国々がどこにあるのかわからない」そんな声をよく聞きます。地理的感覚がなければ、新聞を読んでも、わからないものです。そこで、オリジナルのドリル「地理もつもればっ 日本編」と「地理もつもればっ 世界編」を作成しました。半年のトレーニング後、ほぼ完璧な地図を描けるようになりました。有名都市や世界遺産までも適切に配置できるようになり、かなり地理的知識が身に付いたと思われま

## 5. 語彙力の向上

オリジナルドリル帳と、四字熟語からなる漢字ドリルを使用しました。漢字ドリルで漢字ナシクロ（数独の漢字版）とそこに出題された、四字熟語の意味を調べさせる課題を併せて行っています。

## 6. 人間科学科としての基礎用語を覚える

人間科学科の教員から集めた「1年生のうちに覚えておきたい人間科学科の基本用語」を100個覚えさせました。用語だけ載っている「用語リスト」を学生に渡し、学生には自力で単語を調べさせ、その意味を覚えるように指導をしました。

5と6については効果測定は行っていませんが、100語を超える重要用語や四字熟語などの意味を、徐々に正確に答えられるようになってきています。1年生は記憶力も高く、このような基礎学力向上のための試みは期待以上に成果があったと思っています。

## まとめ

「知の構築講座」の設置に、人間科学科の全教員が賛同しているわけではありません。大学でそのようなりメディアル（補習）教育をする是非についての議論もあります。能力の高い学生にまで強制させることの是非についての議論もあります。担当者の一人としては、この「知の構築講座」は基礎学力向上のための一つの試みだと思っており、実際に授業を展開してみて、やり方に正解はないと毎回感じています。授業では予想もしない様々な問題や学生からの要望もあり、なかなか計画通りは進められないのも事実です。今後も授業の反省点をふまえ、より基礎学力の向上ができる授業に改善したいと考えています。

## 就職活動にも欠かせない基礎学力—スタディカフェの学習支援—

人間科学部人間科学科教授 川崎 末美

2009年秋、本学の就職支援事業「キャリアの早期意識化と基礎学力強化による就職支援」が、学生支援のすぐれた取り組み（Good Practice：略称GP）として文部科学省に選定されました。以来、学生たちがより短期間で就職活動を終え、かつ、より満足度の高い就職を実現できるよう、同窓会の皆さまのご協力をいただきながら本事業を推進しています。

本事業はタイトルが示すように二つの内容を含んでいます。一つは、学生たちが卒業後のキャリアについて入学後の早い段階から考え、その実現に向けて学生生活を通して自己研鑽に励み、また、職業研究や企業研究を行うよう促すことです。もう一つは、就職試験で求められる基礎学力や一般常識を身に付けることの支援です。本稿では後者について紹介しますが、その前に、就職活動にも基礎学力や一般常識が必要なわけを述べておきます。

### なぜ基礎学力の強化が求められるのか

論旨把握力、数的推理力、英語運用能力などの「基礎学力」、政治・経済、歴史・地理、数学や理科、時事問題などの「一般常識」。これらは大学で学ぶためにも、社会で仕事をしていくためにも必要不可欠です。そして、これらは大学入学前に修得しておくべきものですが、

京都大学の西村和雄教授らの著書のタイトル、『分数ができない大学生』に象徴されるように学力が足りない大学生が少なくありません。これには、小・中・高の学習内容や授業時間数の削減を主な内容とする「ゆとり教育」、大学入試における科目削減や推薦入試の拡充など、日本の教育制度や入試の制度の改変が大きく影響しています。

ゆとり教育のもとでは、例えば、分数、時速、比例・反比例など算数の根幹部分が大幅に削減されていることが、その後の学びや日常生活に支障をきたすことがあります。また、受験生の負担を軽減した大学入試制度は、知識を集散的に蓄積する機会を奪っています。したがって、基礎学力や一般常識力の不足は今の大学生に共通した問題であり、英和の学生も例外ではありません。ところが、就職試験では文科系であろうとなかろうと、数学を含む基礎学力や一般常識力を測る筆記試験が課されます。これに合格しなければ面接試験に進めませんので、これらの学力の強化が就職活動に必須の課題になっているのです。

### スタディカフェの学習支援

本学では基礎学力強化のための教育科目として「知の構築講座」が置かれています。しかし、授業時間は限られています。学力の個

## 人間科学科の補習教育「知の構築講座」という試み

人間科学部学部長 柳沢 昌義

### はじめに

90年代後半から『分数ができない大学生』という本が出版され、「ゆとり教育」、「理科離れ」、「活字離れ」、「PISA ショック」など基礎学力がない学生を象徴する言葉が次々と生み出されると共に、学力低下問題が騒がれてきました。実際、中学までの義務教育で習得すべき基本を身に付けずに入学した大学生が本学にも存在します。入試に数学が必要ない大学に入学する多くの学生が高校1年生の「数I」「数A」を最後に、数学とは無縁の学生生活を送っていたようです。このような状況をふまえ、人間科学科では、補習と基礎学力の向上のために、2010年度より「知の構築講座」という科目を設置することに決めました。

基礎学力の向上には、必ずしも「教える」ことは必要ないという研究結果が出ています。学生は黙々と課題に打ち込み、教員は次の課題を導く方法で十分であるということです。そこで、本講座では上記の授業スタイルを取り入れながら、以下の6つの目標を掲げ、授業をスタートさせました。

1. 数学の基礎学力向上
2. 読書をする習慣をつける
3. 新聞を読む習慣をつける
4. 地理に詳しくなる
5. 語彙力の向上
6. 人間科学科としての基礎用語を覚える



本授業で使用した教材

### 1. 数学の基礎学力向上

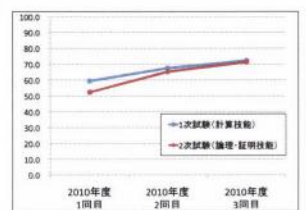
数学については、5つの課題を行いました。オリジナルドリル「花よりす〜がく」（計算問題を短時間で解くトレーニング教材）、数字ドリル（論理的判断を素早く行うためのトレーニング教材）、および市販されている数学ドリル3冊です。

本講座は今年で2年目。図1には、数学検定3級の過去問題の正答率の変化を示してあります。回によって問題の難易度の高低はあるものの、着実に伸びていることがわかります。また、履修の当初から満点に近い点を獲得している学生もいました。このような優秀な学生をどのように導くかは今後の課題となっています。

2011年度、半年間の学習後の数学検定3級1次試験を分析したところ、たとえば、以下の問題の正解率は42.9%と低いものでした。

$$\frac{2}{\sqrt{5}}(3\sqrt{5}-4) + \frac{4\sqrt{5}}{5}$$

一見、ルートがあるために難しいと思われそうですが、学生の解答を分析するとルート自体で間違えているのではなく、分数計算の通分に失敗しているのがほとんどの原因でした。図らずも、一番の苦手分野は分数の計算であったのです。ルートのような高度なことはきちんと理解していても、それ以前に学んだ基礎の自動化ができていないことが原因だったのです。これは本講座のようなドリル学習により容易に克服することができるでしょう。



(図1) 数学検定3級の正答率の変化

## ソフォモア英語 t クラスについて

人間科学部人間科学科准教授 長尾 敦子

2011年度から、大学の2年生の必修英語にtクラスが設置された。大学では、2年生用の必修英語（ソフォモア英語）の授業は、1年生の11月に実施される英語力判定テストに基づき、学科別かつ進度別にクラス分けをして行っているのだが、このtクラスは、各学科のトップの学生達を集めた、初の学科混合クラスである。「トップ」と「統合」からtクラスと名付けられ、前期17名、後期は、留学する5名を除き、12名である。

tクラスを設置した理由は、一言で言えば、真に英語力に秀でた学生を育てたいという思いからであった。大学の必修英語の1クラスは25名前後だが、ここ数年、各学科のトップのクラスにおいて、本当に英語力に秀でた学生（例えばTOEIC550点以上）の数は、一桁になってしまった。しかし、だからといって1クラスの人数は減らせないので、「トップのクラス」でありながら、実は大半が普通の英語力の学生達で占められるようになり、結果的にクラス内での学生達の実力差が拡大し、学生達や教員双方に不満が募っていた。即ち、授業内容を出来る学生に合わせると、大半の学生は「難し過ぎて、ついていけない」と苦情を言い、逆に、大半の学生達に合わ

せると、出来る学生達から「易し過ぎてつまらない」といった苦情が出る。従って、このような事態を改善し、大学の「売り」になるような「真に英語の出来る学生」を育てるには、学科をこえたトップの学生達用のクラスを作るのが最善策だと思われた。

tクラスの具体的な授業内容は、従来通り speaking and listening, reading, writing という3つのスキル別に週3回行われるが、他の必修英語のクラスとの違いは、全クラスが統一テーマで行われるという点である。因みに、今年度前期は「差別」について取り上げ、後期は「生命倫理」の諸問題（臓器移植、ホスピス、など）を扱う予定である。このように、1つの共通テーマの下で読んだり、書いたり、話したりすることで、より密度の濃い学習が出来るのではないかと期待している。また、授業で使う資料は、各スキルの担当者全員で共有し、担当者間の連絡も、幸い全員が専任ゆえに、密に行えている。

まだ始めたばかりなので成果を云々することは出来ないが、「英語の英和」という評判の復活に繋がれることを切望している。

### tクラス感想文

国際社会学部国際社会学科2年 佐野 晃子

私にとって今回のクラスは良い意味で背伸びができ、英語学習への意欲がさらに高まった良い機会でした。それぞれのクラスの主旨に合致しつつも総合的に英語の能力を高めていくことができる授業だったと思います。

読み書き中心の大学受験勉強や実生活で英語を話す機会の少ない私たち大学生にとって、英語で話すというのは3つの授業の中でも多くの生徒が苦手意識を持つものだと思います。私自身も日々、どのようにスピーキング能力を高めていけば良いのかわかりませんでした。しかし、今回のスピーキングのクラスでは毎回、自分で書いたレポートをグループで発表する機会があり、事前に自分の頭で整理することができるので、英語の能力だけ

でなく論理的に考える能力も高められたような気がします。

また、ライティングやリーディングでも1年生の時とは違い、自分が難しいと感じる文章や英作文に取り組みました。1ランク上の英語に取り組むことで自分の苦手な発見や、時には自信に繋がりました。クラスのスタイルも個人個人が考えるのではなく、みんなで意見を共有しながら問題に取り組んでいくことで、新しい着眼点を見つけることができたと思います。

今回のクラスでは先生はもちろん、意識の高いクラスのメンバーにも出会うことができました。先生の「できることだけやっても仕方ない、できないことを克服するのが勉強」という言葉を忘れず、後期も引き続き頑張りたいと思います。

### tクラス受講生

国際社会学部国際社会学科2年 服部 美穂

自分が履修するSophomore Englishがtクラスになったと知ったとき、私は様々な不安を覚えました。他学科の人と仲良くなれるだろうか、授業についていけるだろうか。学年トップのクラスを履修できることに嬉しさを感じつつも、不安ばかりが募りました。ところが、4月になって授業が始まると、その不安はなくなりました。大部分が初対面の人でしたが、自己紹介をあまりしない状態ですぐ仲良くなることができました。他学科の授業についても話を聞くことができ、とても刺激になりました。仲良くなると、内容が難しくても授業を楽しく感じる

ようになりました。困ったときはお互いに助け合えるからです。価値観や社会問題などを英語で学ぶことは、確かに二重の難しさがあります。しかし、授業の内容に関して先生に質問するとわかりやすく教えて下さり、映画鑑賞や余談も充実していたので、苦痛に感じることはありませんでした。素敵な友人に出会えたことや、ハイレベルな英語に触れながらたくさんの方の楽しく学ぶことができたこと、tクラスを通して改めて英語を好きになり、またその経験は大学を卒業した後も活かされると確信しています。

## Advanced English について

国際社会学部国際社会学科教授 高橋 基治

基礎英語で学んだ、読む・書く・話す・聴くという英語スキルを強化、発展させるために Advanced English という科目が新しく開講されます。Advanced English というのは、さらに英語をやりたい、今まで身につけてきた英語をもっと深めたい、専門的にやりたいという意欲のある学生向けに設置されたものです。個々人の興味や関心に合わせて、上手に組み合わせることで、幅広い英語力を身に付けることができます。科目一覧にあるようにAからEの5科目が用意されています。

ここではこの中の一つ Advanced English B について、ご説明しましょう。目標は全部で4つあります。

- ①英文ビジネス文書のパターンとフォーマット(スキーマ)を知る
- ②英文ビジネス文書特有の表現を習得する
- ③スキミング・スキヤニング技術を習得する
- ④TOEICリーディングパートのスコアアップ

現代のビジネス社会を取り巻く環境は、インターネットの普及によって大きく変貌を遂げました。E-mailの使用が日常的になり、24時間を通じて、いつでも、どこでも、だれとでもコミュニケーションをとることが可能になりました。国境を越えたやりとりのほとんどが英語でなされています。インターネットの世界では情報のおよそ80%が英語で書かれていると言われてます。そのような中、英語を使ったビジネスの現場で必要とされる重要なスキルに、限られた時間内に正確に「読む」という能力があげられます。大量の情報を効率よく処理していく、スピード処理能力とも言い換えられます。今後はますますこの力が求められる時代になるでしょう。こういった現状を鑑み、本授業では、IT時代に対応できるように、ビジネス文書の読解の理論と実践について学びます。

即、現場で使える実践的な読解能力を身に付けられるよう、さまざまなタイプ、テーマのビジネス文書を英語で読みます。「読み」の技術的な側面(スキミング・スキヤニング)だけでなく、内容理解のための、背景知識の獲得やパラグラフ構成についても学習します。扱う素材としては、具体的には、ビジネスレター、メール、広告、通知、説明書、レポートなどです。特にレター、メールは書式にも一定の型があり、それらの型を徹底的に覚えていきます。また、試験対策も兼ねてTOEICの読解問題を素材に使用しますので、解法のポイントや効率のいい読み方なども、同時に学習できます。

### 科目一覧

クラス名	内容	対象学生
Advanced English A	テレビや新聞を通じて発信されるメディア英語を学ぶ	通信、放送、メディア関係の仕事に就きたい学生向き
Advanced English B	ビジネス現場で使われている英語の習得	グローバル企業で働いてみたい学生向き
Advanced English C	Productive Skills(話す能力と書く能力)を育成するクラス	英語での発信能力を高めたい学生向き
Advanced English D	文化摩擦を認識し、それらの理解を目指す	海外で働いてみたい学生向き
Advanced English E	ネイティブ・スピーカーによるプロジェクトワーク	自らが主体的に参加することを希望している学生向け

次にその授業スケジュールをあげてみます。

- 第1回 オリエンテーション-授業内容の説明とスケジュール
- 第2回 メール(E-mail)
- 第3回 手紙(Letter)1:承諾、クレーム、通知
- 第4回 手紙(Letter)2:謝罪、申し込み、アポイント
- 第5回 手紙(Letter)3:催促、苦情、評価・称賛
- 第6回 広告(Announcement)1:人材募集、販売広告
- 第7回 広告(Announcement)2:サービス案内
- 第8回 通知・通告(Notice)1:社外編
- 第9回 通知・通告(Notice)2:社内編
- 第10回 記事(Article)1:医療、教育、メディア
- 第11回 記事(Article)2:環境、IT、経済
- 第12回 リリース(Press Release)
- 第13回 フォーム(Form)
- 第14回 説明書・レポート(Instructions and Report)1:取り扱い説明書
- 第15回 説明書・レポート(Instructions and Report)2:投資家報告書
- 第16回 定期試験

最後に一言。昨今、楽天、ユニクロの英語社内公用語化の影響もあってか、英語に強い関心が集まっています。中には不安に駆られTOEICや英語の問題集を買いこんでいる人も多くいるでしょう。でも、こんな時こそ、一度立ち止まって、根本的な問いを自分自身にしてみてください。

「自分はなぜ英語が必要なのか」

「自分のキャリア上英語が使えるとどんなメリットがあるのか」

「自分は実際にほんとうに英語が必要なのか」etc.

これらが全部明確にYesとなるのかどうか今一度自問自答してみてください。答えが出たのなら、一心不乱に頑張ってみてください。ただ、ここで大事なことは、クラスを履修したら、毎日少しずつでも宿題や課題をやったり、関連図書を読んだり、ニュースを聞いたり、英語に触れるよう努めてください。「毎日30分は英語に向き合おう」と決めたなら、通勤やアルバイトで疲れた日でも5分は向き合ってみましょう。人間、休めば休みぐせがつきます。明日やればいいのか、になって休むことが習慣になります。また言い訳も多くなります。これでは使える英語習得の夢が遠くへ行ってしまう。どうか英語を常に身近に引き寄せて置いてください。少しでもAdvanced Englishがそのお手伝いになれば嬉しく思います。

新聞記者になった大学院修了生たち—大学院での学びが大きな糧に—

限界は天高くに

大学院で学んだ2年間がなければ、私は記者になれなかったと思います。

1999年春、中央大学を卒業したばかりの私が英和の社会人大学院に進学したのは、留学先の英国の大学で増田弘先生の『石橋湛山』を読んだからでした。大学院での2年間、人生の先輩たちの学ぶ姿勢に刺激を受けました。授業の後の「居酒屋の授業」も楽しみでした。

専攻は日本の近現代史で、研究テーマは、三木武夫内閣の官房長官を務めた井出一太郎氏。残念ながらご家族の了解が得られず、故人の日記を研究の素材にはできませんでしたが、一人の政治家の人生から昭和史を追う作業は、記者としてさまざまな現場を歩く時の一つの時間軸になりました。



2001年3月、恩師の増田弘先生と。留学直後に先生に手紙を書き、「弟子入り」を志願しました

時事問題が好きで、増田先生からはよく「ジャーナリズムとアカデミズムは違う」と指導を受けました。念願がかない、2001年に新聞記者という職を得ました。ところが、今年3月の東日

時事問題が好きで、増田先生からはよく「ジャーナリズムとアカデミズムは違う」と指導を受けました。念願がかない、2001年に新聞記者という職を得ました。ところが、今年3月の東日

2001年 大学院社会科学研究所修了 久保 紀世子 (旧姓：見市)

本大震災の後は、逆に時事的な話題を追う難しさを感じています。4月末から2週間、宮城県の被災地取材しました。初めて言葉にできない無力感を味わいました。一方で、あまりの惨状に「書かなければ」と高揚し、いくら働いても疲れませんでした。東京で「復旧、復興」が叫ばれるほど、現実との差に悩みました。

そんな時、福島県郡山市の読者から葉書が届きました。「あなたの記事はくまなく保管しております」とあり、読んでくれている人がいると思うだけで、記者になった原点を思い出しました。歴史に立ち会い、それを伝える仕事を選んだのではないかと。

高校時代に「The sky is the limit. (限界は天高くに)」という詩を知り、岐路に立った時は念じてきました。つい最近、この詩を書いたのが有名なジャーナリストだったと知って驚きました。今の私にできることは、読者に寄り添って現実を書き残していくこと。それが私自身も成長させてくれると思っています。



会社のヘリコプターで空から取材。望遠レンズで撮影したので酔ってしまいました

【プロフィール】

久保紀世子(くぼ・きよこ) 朝日新聞東京本社生活グループ記者。1977年生まれ。99年中央大学総合政策学部卒。2001年東洋英和女学院大学大学院社会科学研究所修了、同年朝日新聞社入社。徳島、千葉支局、東京本社生活部、社会グループを経て現職。

人生の先輩から学んだ「心意気」

東洋英和で学ぶことが決まったとき、ひとつ心配事があった。それは、「女学院」であるということ。馬鹿馬鹿しいと思われるだろうが、あまりにも女性からほど遠い自分が、学舎の雰囲気になじめるか、気がかりだった。結果的に、極度にピント外れで、杞憂に過ぎなかったのだが、「女学院生」になったことが後々、役立つこともあった。

「東洋英和女学院で学んだことがあって」

「冗談ですか…?」

社会人となってからも、初対面の相手に「女学院生の男」と覚えてもらうことまであった。ただ、指導して頂いた先生方や、大学院で共に学んだ院生の気風などに話題が及ぶと、相手も「おなるほど」と納得。「素晴らしい環境ですね」と、うらやむ人もいた。

大学院で得た財産は、山ほどあると自認している。過去にないほど本や資料をめくり、頭に汗をかくのが楽しかった。そして、学ぶことに対して真摯に向き合う「仲間」と出会うことができたのが、最高の宝だったと思う。

社会人大学院だけに、学生専門で学ぶ私のようなケースは少なかった。多くは、昼間の仕事をこなしつつ、夕方からの授業に臨む。貴重な休日にも、日頃の疲れをみせず、遠路を六本木の校舎まで通う人もいた。決して楽ではないはずだが、仕事の辛さ、多忙なスケジュールに弱音を吐く人はいなかった。

2005年 大学院国際協力研究所修了 中村 昌史

授業後、人生の先輩たちと繰り出す「反省会」が、密かな楽しみでもあった。熱が入りすぎて終電で寝過ごし、三浦海岸近くの駅で目覚めて途方に暮れたこともある。人気のない真っ暗な駅前、タクシーもなく、電話ボックスで一夜を過ごしたときは、さすがに反省した。

「取材相手の専門分野で相手の知識を凌ぐくらい勉強しろ」。かつて、先輩記者にこう忠告された。仕事に取り組む姿勢として当たり前のことかもしれないが、今は驚くほど時間がないように感じる。無知との戦いの連続で、もっと勉強しておけば、と悔いは募る。

ただ、学び始めるのに、「遅すぎる」ことはない。その心意気を、大学院で出会った仲間に教わった。何よりも、学ぼう、知ろうとする意欲や勇気があれば、それだけで可能性の道は広がる。

あの頃のように、また同じ教室で熱く議論してみたい。



緊張の毎日だが「厳しく、楽しく」を信条に奮闘中。不規則な生活で体重増が密かな悩み…

【プロフィール】

中村昌史(なかむら・まさし) 産経新聞東京本社社会部。警視庁担当。1979年生まれ、熊本県出身。成蹊大学法学部卒。東洋英和女学院大学大学院国際協力研究所修了。2005年、産経新聞入社。水戸支局、前橋支局を経て現職。

## 2012年度入試制度のご案内

それぞれの入試のメリットや特徴について、ご紹介いたします。

10月 公募制推薦・同窓生子女枠特別推薦入試

11月 指定校推薦入試

12月 スカラシップ特別入試

### ①2年間の授業料・教育充実費・施設設備資金を免除

スカラシップ生として合格すると授業料・教育充実費・施設設備資金（合計104万円）を1年次・2年次の2年間免除します。また、入学後の成績が一定の基準に達していれば3年次・4年次までの免除が継続されます。

### ②スカラシップ生として不合格でも、合格のチャンス

この試験でスカラシップ生として合格しなかった場合でも、一般入学試験の合格者水準に達していると認められた受験生は、一般入学試験を免除して入学を許可します。

### ③他大学との併願もできる

年内に合格の確保が可能です。また、合格した場合の入学の拘束はありませんので他大学との併願もできます。

### ④推薦入試との併願もできる

公募制推薦入試・指定校推薦入試の合格者も受験が可能。ただし、指定校推薦入試の合格者は合格学科に限ります。スカラシップ生として合格のチャンスがあります。

### ⑤試験会場の選択ができる

横浜（本学）、東京（六本木：中高部）の2つの試験会場から選択して受験することができます。

1月 大学入試センター試験利用選抜

### ①本学が実施する個別試験はなし

### ②出願時に2教科型・3教科型のいずれかを選択

### ③高得点の科目を利用

選択科目は高得点の科目を利用します。一般入学試験にはない「数学」「理科」「公民」も利用でき得意科目を生かすことができます。

### ④合格のチャンスが広がる

4学科に出願（併願）できます。

1月 一般入試

### ①出願時に2教科型・3教科型のいずれかを選択

### ②2学科に出願（併願）することができる

### ③入学検定料が割引になる

通常35,000円の入学検定料が2学科併願の場合、45,000円になり25,000円割引となります。

2月 一般入試（後期）

### ①2教科で受験できる

英語と国語（現代文のみ）の2教科入試なので受験教科を絞ることができます。

### ②試験会場は横浜と東京の2会場から選択できる

\*他に社会人入試、編入試、外国人留学生入試を実施、また、院内生を対象とした院内推薦入試も行っています。

お問い合わせ・願書のご請求は大学入試広報課（045-922-5512）まで

## OPEN CAMPUS 2011 緑に囲まれた横浜キャンパスにようこそ！

横浜の緑区の森に隣接する緑の多い広大な敷地にある東洋英和女学院大学。自然に囲まれたキャンパスに約2,400名の学生が学んでいます。キャンパスには学生が学ぶ環境をサポートする生活関連施設も整っています。体育館、テニスコート、ゴルフ場、アクアエクササイズセンターなど、スポーツ施設も充実しています。

[2011年度オープンキャンパス] 11月20日(日) 10:00～16:00

### ■学科・入試ガイダンス

大学の特色や学びの内容、入試制度などについて説明します。



### ■キャンパスツアー

英和生がエピソードを交えながら自然に調和したチャペルや図書館などを案内します。



### ■ミニ授業

大学の授業をコンパクトな形で紹介します。興味のある学科の授業を体験できます。



### ■英和生による入試体験談・キャンパスライブ紹介

在学生が入試体験やキャンパスライブを本音で語ります。



### ■英和生・教職員による個別相談

授業、進路、入試、勉強の方法、クラブ活動のことなどの質問に個別に答えます。



## 生涯学習センターのご案内

大学の生涯学習センターは、1998年の発足以来、文芸・教養、語学、音楽・アート、スポーツ・フィットネスなど、多彩な講座を、横浜・六本木両キャンパスにおいて開講しております。

これまでに学院の卒業生、在学生のご家族ならびに近隣地域の方々など、延べ23,800人以上の方にご受講いただきました。

緑豊かな横浜キャンパスではテニスやハワイアンフラ、ゴルフ、水中ウォーキング、アクアビクスなど、充実したスポーツ・フィットネス施設を利用した講座を多く開講しております。

また、学部の一部の講義を学部公開講座として一般公開しており、現役学生とともに「精神保健学」「生命倫理」「乳幼児発達心理学」「経済政策」「紛争解決ワークショップ」など、人間科学部・国際社会学部の幅広い学びに触れることもできます。

一方、六本木キャンパスでは、キリスト教関連講座はもとより、英米小説の読書会、児童文学の翻訳や時事英文の読解などの英語から、楔形文字を使用する古代言語（アッカド語など）、ラテン語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語まで、アカデミックな語学・文芸・教養講座を多く開講しているのが特徴です。

今後も講座を通して地域貢献を推進するとともに、卒業生、在学生のご家族など、学院関係者の皆様には受講料の割引制度も用意しておりますので、お知り合いや旧友と机を並べて新たな学びや趣味を始めるための助力となれば幸いです。

### 冬学期講座のご案内 11 / 28 (月) 申込受付開始

生涯学習センターパンフレット巻末の所定振込用紙に必要事項をご記入の上、郵便局より振り込みにてお申し込みください。パンフレットは無料で送付いたします。



英和読書会 —もう一度英語で—



みんなで楽しむはじめてのピアノ



フラワーアレンジ



中・上級テニス



楽しいバレエ・ダンス



ハワイアンフラ



気功



エンジョイ・ゴルフ



アクアビクス・エクササイズ

お問い合わせ・資料請求

東洋英和女学院大学 生涯学習センター

TEL : 045-922-9707 E-mail : shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

## 大学の研究所からのご案内

### 死生学研究所 連続講座

日時	内容
2012年 1月21日(土)	① 14:40 ~ 「Education for Life and Beyond」(日本語訳あり) Miriam T. Black (本学准教授)
	② 16:20 ~ 「変容過程の神話・儀礼・美術」 渡辺和子 (本学教授)
2012年 2月18日(土)	① 14:40 ~ 「ニコラウス・マヌエルの現実と死後を見つめる眼」 鈴木桂子 (本学生涯学習センター講師)
	② 16:20 ~ 「哲学的主題としての死後生の問題」 深澤英隆 (一橋大学大学院教授)

場所：六本木校地 本部・大学院棟 201 教室  
各回参加費 500 円、事前申込不要  
死生学研究所 03-3583-4035 (Fax 専用) E-mail shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

### 保育子ども研究所 セミナー

#### 「第5回 保育子どもセミナー」

日時：2011年12月26日(月) 午前10時～午後5時

会場：東洋英和女学院中上部集會室(六本木) 参加費：1,000円

講師：吉澤 昇氏(東京大学名誉教授)

「どうか子どもの人生をこわさないで下さい—私とキリスト者教育の75年」

島 多代氏(前日本国際児童図書評議会会長)

「絵本の黄金時代が記録した子どもたちへの伝言」

9:30 10:00 10:40 12:10 13:30 14:40 15:10 16:40

受付	開会 礼拝	講演 I 吉澤氏	昼食 (各自)	ワークショップ 分科会	TEA	講演 II 島氏	閉会 祈禱
----	----------	-------------	------------	----------------	-----	-------------	----------

お申込みは、氏名、所属、住所、連絡先を書いて Fax または葉書でお送りください。

Fax : 045-922-7718 〒226-0015 横浜市緑区三保町 32 東洋英和保育子ども研究所

※本セミナーは主に保育者、保育関係者を対象としています。

### メディア・コミュニケーション研究所 連続講演会

日時	テーマ：携帯電話
11月17日(木)	【対談・ケータイ小説を語る】 日本ケータイ小説大賞受賞者 十和氏とスターツ出版専務 新井俊也氏
11月24日(木)	【講演】「携帯電話の光と影」 中央大学教授 松田美佐氏
12月8日(木)	【講演】「ツイッターの世界」 デジタルガレージ 佐々木智也氏

場所：大学9号館(横浜校地)  
時間：13:10 から 無料、申込不要  
お問合せ：大学代表 045-922-5511

### 現代史研究所 連続研究講座

テーマ「超少子高齢化社会、ニッポン：私たちはいかに生きるか」

世界の複雑な現状を分かりやすくお話しします。皆様ふるってご参加ください。

第6回	12月19日(月) 13:10 ~ 14:40	「転換期に入った国際社会と新たな日中関係 の再構築—少子高齢化の流れの中で」	天児 慧 早稲田大学大学院 教授
-----	----------------------------	---	---------------------

場所：東洋英和女学院大学 横浜キャンパス 5201 教室 無料、申込不要

1月以降も連続講座を開催する予定です。詳細決定次第、大学ホームページに掲載します。

現代史研究所 TEL/FAX 045-922-7272 E-mail gendaiken@toyoeiwa.ac.jp

### 社会技術研究所・現代史研究所共催シンポジウムを開催しました

テーマ「フクシマから何を学ぶか?」10月29日(土) 中上部新マーガレット・クレイグ記念講堂にて

【第I部 シンポジウム】パネリスト：鈴木 達治郎(内閣府原子力委員会 委員長代理) 村上 陽一郎(本学学長) 岡本 浩一(本学 人間科学部教授・社会技術研究所所長)  
司 会：滝澤 三郎(本学 国際社会学部教授・国際協力研究科長)

【第II部 Q & A】

# 一生モノの行動指針―東洋英和での出会い―



一九九七年 社会科学部社会科学科卒業 杉本 香七

すぎもとかな

専門商社、外資系IT企業等を経て、二〇〇五年より「スキーズ式米語発音教授法」発音指導者および学習アドバイザー、教材企画・開発に従事。二〇〇九年早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程修了、経営学修士(MBA)。二〇一二年より早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程に在籍。専門はラグジュアリーブランド・マネジメント。

## 学生時代の出会い

失敗に終わった中学受験から続いた長い受験戦争が終わり、大げさなようですが私の人生にもようやく春が訪れました。しばらく勉強のことは忘れて、四年間のんびり過ごそうと考えつつ大学の入学式を迎えました。桜とチャペルの美しさ以外、細かい事は覚えていませんが、当時の学長であった朝倉孝吉先生がおっしゃった言葉は心に深く刻まれ、その後の行動指針のような、お守りのような存在となりました。その言葉とは、「ない物があったらお作りなさい」です。確か「東洋英和女学院大学は出来たばかりで部活も制度も他大学のように揃っていない。だから、必要と思う物がなければ好きなように作ればよい」というような文脈だったと記憶しています。シンプルでわかりやすく、本質的なこのメッセージは、

一八歳の私の心に響きました。

在学中は裏千家茶道部に所属していました。お道具も茶室もない、予算も少ないし集客力もない、ない物尽くしでした。それでも、創部以来今でもご指導いただいている野本宗洋先生と、顧問の林文先生の寛大なお人柄という心強い存在に守られ、知恵を絞って工夫をし、好きなだけ「ない物を作る」ことができました。ここでの経験は、その後の仕事や学業でも大いに役立っており、大変感謝しています。

## 卒業後の予期せぬ展開

新卒で入った日本企業での営業事務を経て何度か転職し、ベンチャー企業、合弁外資のスタートアップ企業、アメリカの大手IT企業など、数社で様々な業務を経験しました。環境や立場は色々でしたが、振り返ってみると「ない物があったら作る」という事が常に自分の行動指針となっていたのだと感じます。

時代は海外ブランドブームで、猫も杓子もヴィトンやフェラガモを身に付けていました。そうした中で、「まるで洋服に合わないブランドバッグになぜ多くの人々が熱狂するのか」という素朴な疑問を持つようになりました。これが大学院時代に書いた『シヤネルの戦略』の原点です。そして、この本がきっかけで、今年の四月から、東洋英和女学院大学のスタディカフェでキャリアアコンサルタントとして英語や就職・進学のアドバイスをさせていただいています。

他所の大学に入ってみて改めて、東洋英和の良さを実感しました。とりわけ、先生方の、学生さんへの愛情の深さやサポートのきめ細かさは、他校にない素晴らしい特色です。これからも後輩の皆さんの将来設計に少しでもお役に立てるよう、全力で頑張りたいと思っています。



雨宮 健先生とゼミの仲間とのお食事会にて



長沢伸也教授との共著「シヤネルの戦略―究極のラグジュアリーブランドに見る技術経営―」(東洋経済新報社)

## 幼稚園での防災訓練について

六月の二日間、幼稚園では引き取り訓練を実施いたしました。

園内にサイレンが鳴り響き、教師の誘導のもとに真剣な表情の子どもたちが庭に避難したのは従来の訓練と同様なのですが、いつもと違うのは、子どもたちを引き取りにいらした保護者の方々の持ち物や服装です。

膨らんだシヨルダーバッグやリュックサックにスニーカー、そして多くのお母様のパンツ姿…。そうです、この日の引き取り訓練は、幼稚園から自宅まで、親子で出来る限り徒歩で帰宅することを中心に据えたものだったのです。

この引き取り訓練後、以下のような質問のアンケートを提出していただきました。

- ・完全徒歩で帰宅する場合の経路と予想される所要時間
- ・今回、実際に歩いた区間とかがかった時間
- ・必要なものとしてどんなものを用意しましたか？
- ・あつたほうがよいと思ったもの
- ・お子さんの様子
- ・保護者の方の感想

二時間以上歩いた親子もいらしたことが、保護者の方が各々によく考えて持ち物を用意されていたこと、実際に歩いてみると引き取り時に必要なものが

わかること（おんぶひもや軍手が必要だと感じた方も）、多くの子どもたちが子どもなりに訓練の目的を理解して歩いていたことなどが提出されたアンケートからわかり、幼稚園としても学びの大きかった今回の引き取り訓練でした。保護者の方々のご協力に感謝いたします。

地震の発生を想定したもののほか、火災発生や不審者の侵入を想定した各種の防災・防犯訓練も、幼稚園では年間を通して計画しています。幼い子どもたちが日々、安心して幼稚園で過ごすことができるよう、今後も努めてまいります。



## 大学の実習生と共に

かえで幼稚園は大学の付属園として「東洋英和の保育」を具体的に実践する中で、実習生を受け入れ、大学と共に学生を養成していく一端を担っています。実習生の一日は、保育者と共に讃美歌を歌い聖書を読み祈ることから始まります。そして子どもとの生活、保育の準備、担当保育者との実習相談を通して、幼稚園生活や保育者の役割を体験します。学生それぞれが見学・観察の時を経て、三年生や四年生になると、保育の一部の責任をもつて計画し、担当する実習もします（絵本を読んだり、歌を教えたり、ゲームをしたり、生活の指導をしたりです）。初めのうちは子どものことをただ「かわいい」とだけ見

ていた学生も、実習を通して、子どもの存在を認め成長を支えることや、導くことの難しさも覚えます。そして保育という仕事のおもしろさと責任の深さを知り、自分の中に課題を持ち、再び大学での学びへと帰っていきます。

保育は、子どもがいる時間だけではなく、午後の準備の時にも大きな意味があります。子どもの話をしながら保育者と共に、教材の準備をしたり、環境を整えたりします。

時には草むしりや大工仕事など体力を使うこともあり、汗を流しながら「これも保育者の仕事なのですね」と改めて保育という仕事の幅広さを感じる学生もいます。

学生との時間は保育者にとっても学びの時であり、話し合いや学生の日誌から気づかされることも多くあります。また、子どもたちにとっても、学生とのふれあいは楽しく、意味のあるものです。

かえで幼稚園はこれからも、実習園として、子どもの幸せを願う保育者の養成に心を注いでいきたいと思えます。



誕生日会の中でカエルになる



子どもとふれ合い、楽しさを知る



クリスマスの聖書研究を保育者と共にする

「パイプオルガンと小学生の歌によるコンサート」の報告(二〇一二年七月)

小学部講堂にオルンダのライル社製のパイプオルガンが置かれたのが二〇〇六年二月。以来、楓のマークが中央に彫られ、場所の制約からL字型に曲がった愛すべき小学部のオルガンは、豊かな響き、美しい音色で子どもたちの賛美を支え、音楽会を助けてきました。

対外的なコンサートとしては第二回目となる今回、東日本大震災を支援するという形で持つことができました。同時にこのパイプオルガンを、そして小学部を、よりたくさんの方々に知っていただきたいということも目指し、学校の紹介にもなり、幼児も来られるコンサートを考えました。そのために最適なオルガニストは米山浩子さんをおいて外にいらっしゃいません。卒業生であり、学院を心から愛する米山さんは自らマイクを持ち、楽しい語りでオルガンや曲の説明をなさっただけでなく、ご自身の思い出も含め、東洋英和の素晴らしさをたくさん伝えてくださいました。選ばれた曲も、一度は誰もが聞いたことがあるような曲ばかりで、静かなものから華やかなものまで、いろいろな音色を聞かせてもらえました。さらに聞きに来た幼児が参加できる楽しいプログラム、「オルガンといっしょに歌いましょう！」も用意してくださいました。オルガンに導かれ、会場全体が「とな

りのトトロ」の中の曲、「さんぽ」の大合唱で一つになりました。

小学部の子どもたちは、このコンサートのために大切な役割を担っています。歌と語りのためには、三、四年生から出演したい子を募りました。もともと歌うのが大好きな小学部生です。全体の半数を超える八七名の児童が参加し、当日の受付や案内の手伝いもしてくれました。

子どもたちが歌ったのは、「六万枚の楓のはっぱ〜東洋英和の二〇〇年〜」です。これは小学部音楽科山内桜子教諭が二〇〇四年に、学院二〇周年を記念して作詞・作曲したもので、今も授業で取り上げられている小学部の子どもたちは皆、この曲を知っています。「楓のはっぱ」の「六万枚」とは、二〇〇年間に東洋英和に関わった生徒・教職員たちのおよその人数のことです。遠いカナダから運ばれ、麻布の地にたった一粒まかれた信仰の種が、幾多の困難を乗り越えて育ち、東洋英和の楓となり、神の恵みと慈しみを浴び六万枚の葉をゆらすようになるまで、歌とお話で綴られます。

この日満席の小学部講堂でのコンサートに参加した一人ひとり、美しいオルガン演奏から与えられる喜びと、子どもたちが伝えた、学院を通して神様が示されている豊かな愛と恵みとの両方に満たされました。

小学部部长 山本 香織



3、4年有志による歌とお話、「6万枚の楓のはっぱ〜東洋英和の120年〜」東洋英和への神様の愛が伝わりました



今回初めて、小学部オルガン科の6年生が対外的コンサートで演奏をしました。モーツァルトが美しく奏でられ、感動を与えていました

＜オルガニスト 米山 浩子さんご紹介＞

小・中・高と東洋英和女学院で学ぶ。12歳より鳥居坂教会オルガニストを務める。中学3年生の時に東洋英和中学部のオルガン同好会にて河野和雄先生のオルガン指導を受ける。東京芸術大学オルガン科を卒業。オルガンを秋元道雄氏、ローウェル・レーシー氏、ミヒヤエル・ラドゥレスク氏に師事。アメリカオルガニスト協会主催オルガンコンクールにて、ニューヨーク地区優勝。日本オルガニスト協会、オルガン研究会会員。



当日、東日本大震災支援募金をしてくださった方に、感謝のしるしとして小さな楓のカードをお渡ししました。これはコンサートには参加しなかった、他の全校児童が手作りました

## 中一オリエンテーション

中学部部长 鈴木 齊

五月、軽井沢追分寮での宿泊行事

京都に向かう中山道と越後に通じる北国街道の分岐点である分去れは信濃追分の地にあり、旅人の宿場町として栄えたところです。東洋英和女学院軽井沢追分寮は分去れを北国街道に入って直ぐの所にあります。現在は国道一八号と浅間サンラインの交差点が近くに出来ていますが、追分寮が誕生した一九五九（昭和三四）年頃は浅間山の麓の閑静な所だったに違いありません。今日でも中学一年生が追分寮を訪れる五月半ばは、若葉の雑木林と枝垂桜、色鮮やかなタンポポと芝桜が生徒を迎えてくれます。

### オリエンテーションの歴史

毎年行われている中一オリエンテーションは、追分寮が生まれる前年の一九五八（昭和三三）年に始められた中一夏期学校がその前身となっています。

当時、夏の宿泊行事はとても盛んで、YMCA 野尻学荘でのキャンプ、御殿場東山荘での高等部修養会と中学部修養会があり多くの生徒が参加していたように



チャペルでの礼拝のひとつ



先生と一緒にゴスペルを楽しみます

す。そこには中一は参加できないルールがありました。そこで事前体験という名の下に、帰省で空いた青楓寮（かつてあった学院の学生寮）を借りて、希望者による二泊三日の夏期学校となったのです。参加者は八七名で半分の生徒が参加したことになりました。同じ敷地内の幼稚園舎も借りて礼拝や集会が持たれたようです。

当時の主題は「良い英和生となるために」。主題聖句はマルコによる福音書一二章三〇・三一節であり、五三年後の今も変わらずに守られています。

そして翌年から、創立七五周年の記念事業で誕生した追分寮で、中高二つの修養会と中一夏期学校が前期・後期に分かれて開催されるようになりました。

その後名称は「中一修養会」、「中一夏期オリエンテーション」、「中一オリエンテーション」と変化してきました。

多彩なプログラムから学ぶこと

現在のオリエンテーションではどのようなプログラムが行われているのか紹介しましょう。「良い英和生となるために」英和が最も大切にしている教えを分かり易く伝え、心に刻まれるように工夫されています。神様の赦しと大きな愛を学ぶ「放蕩息子」の諭えと、愛に生きたマザーテレサの働きはDVDを交えて学びます。

隣人を愛する教えは、「善きサマリヤ人」の諭えを先生方が旅人や強盗、祭司、レビ人、サマリヤ人、宿屋の主人やロバなどの役を演じて、ダイナミックに聖書の物語を伝えます。強盗が旅人を襲う場面が最も盛り上がり、若い女の先生がロバの役だと生徒の同情を一身に集めることになりました。

そして次には生徒たちが部屋ごとに、登場人物の「その後の人生」を描いて演じるのです。中一となってまだ日が浅い仲間たちですが、他のグループに負けまいと頭を寄せて知恵を出し合ってストーリーを描き、芝居を作っていきます。この作業に個性が発揮されます。発想や発言、芝居や台詞の言い回しにそれぞれ隠せない地が出るのです。それが生徒間の距離を一気に縮めます。今まで互いにあった遠慮がなくなり友達と言えるようになります。それは、新しい学校生活への不安を薄くし、前へ一歩踏み出す勇氣と希望を生み出します。さて芝居ですが、笑いや意外性が盛り込

まれ面白く仕上がっていて、やんや、やんやの喝采が起ります。しかしその芝居の底に流れるテーマは、愛と赦しと悔い改めです。素直にイエス様の話に耳を傾け、受け止めている事が良く分かります。

もう一つ必ず組み込まれるプログラムは「楽焼」です。軽井沢の楽焼を経験した方は多いと思います。庭のベンチに座って、真っ白な皿に絵筆を走らせます。「愛」「祈り」「希望」など聖句を書いてその周りを色とりどりの模様で飾ります。中一での初めての宿泊行事。不安一杯で来たけれど、「楽焼」をする頃は楽しい思い出が一杯となっています。

レクリエーションプログラムもあります。左の写真は女性の先生方がセーラー服と背広を着ている写真です。一九七〇年の時の現在のレクリエーションはゴスペルを歌い、先生と一緒に踊ったりして楽しめます。



後ろ左から、中西郁子先生、長友玲子先生、狩野歌先生、内藤素代子先生、藤田良子先生、加藤信子先生（1970年）

東洋英和  
幼稚園



軽井沢追分寮でのキャンプファイヤー

- 春の遠足 6月1日(水)  
五歳児親子は、しながわ水族館で、三・四歳児親子は幼稚園内で、楽しく過ごしました。
- 父母の会講演会 6月4日(土)  
東後勝明先生(早稲田大学名誉教授)「家族の楽しさ・難しさ」  
「親として・子として」
- 引き取り訓練  
6月3日(金)・6月9日(木)  
地震発生後の交通機関の停止を想定し、親子で歩ける所まで歩いて帰宅しました。
- いちようの木献金セール  
～母の会主催～  
6月24日(金)  
多くのお客様をお迎えしました。
- 五歳児キャンプ  
7月6日(水)～8日(金)  
軽井沢追分寮で自然を満喫した二泊三日を過ごしました。

大学付属  
かえで  
幼稚園



夕涼み会—おばけのダンス—

- 歯科健診 6月23日(木)  
園医の元開富士雄先生による健診を受けました。
- ワークの日 6月25日(土)  
今年度二度目のワーク。お父さま方が、力を合わせて作業する姿を、子どもたちに見せてくださっていました。
- 三歳児たのしみ会・一学期終業  
7月15日(金)
- 四・五歳児一学期終業礼拝  
7月15日(金)
- 四・五歳児夕涼み会  
7月16日(土)  
子どもたちは夕方庭で、お店めぐり、ダンスや劇、花火等を楽しみました。
- 美しが丘夏祭り 7月31日(日)  
美しが丘地域の夏祭りに参加し、卒業生も交えてダンスを踊りました。

小学部



夏期学校でのキャンプファイヤー

- 授業参観日  
5月27日(金)、30日(月)
- 四年社会科見学 6月14日(火)  
新江東清掃工場と中央防波堤埋め立て処分場を見学しました。
- ペンテコステ礼拝 6月15日(水)  
小海基牧師(荻窪教会)をお招きし、力強い説教をうかがうことができました。
- 鑑賞の日 6月21日(火)  
〈劇団えるむ〉による演劇「地べたっささまやあゝい」を鑑賞しました。
- 土曜参観日 6月25日(土)  
授業のあとには、父の会主催のゲームをそれぞれの学年が楽しみました。
- オルガンコンサート  
7月9日(土)
- 夏期学校(追分寮)  
7月14日(木)～7月30日(土)

中高部



中学部合唱コンクール

- 中学部鑑賞行事 6月9日(木)  
「出口誠とザ・ファースト・セブテット」のジャズコンサート。
- 高一カンファレンス  
6月16日(木)～17日(金)
- 捜真学院自然教室にて講師は陣内大蔵牧師(東美教会)でした。
- 中学部合唱コンクール  
6月24日(金)  
最優秀賞は中3～2組でした。
- 高等部球技会 6月24日(金)  
高三～五組が総合優勝しました。
- カナダ語学研修  
7月18日(月)～8月8日(月)
- 中2夏期学校前・後期(野尻湖)  
7月22日(金)～29日(金)
- 訓練キャンプ(野尻湖)  
7月29日(金)～8月1日(月)
- キャンプ(野尻湖)  
8月1日(月)～6日(土)
- 夏期修養会(追分寮)  
8月1日(月)～4日(木)

大学  
大学院



オープンキャンパスでのサークルによる演奏(8月28日)

- (大学)  
● オープンキャンパス  
6月19日(日)、7月30日(土)、8月28日(日)  
ガイドダンス、キャンパスツアー、教員や在学生による個別相談、学食体験、本学教員によるミニ講義、外部講師による面接対策講座・小論文講座、サークルによるミニコンサートなどが行われました。
- 追悼礼拝 7月13日(水)  
前人間科学部学部長、高木栄作先生の追悼礼拝が行われました。教員、在学生、卒業生から故人の思い出が語られ、あらためて高木先生の誠実で優しかったお人柄が偲ばれました。
- (大学院)  
● 入試説明・相談会  
7月23日(土) 両研究科  
概要説明、個別相談(六本木)

二〇一一年度 追悼記念日礼拝

さる一〇月一日(土)、新マーガレット・クレイグ記念講堂にて追悼記念日礼拝が行われました。この礼拝は学院と同窓会の共催で、この一年間に永眠された在校生、現・旧教職員、学院関係者、同窓生を偲び一同で祈りを捧げます。在校生は高等部三年生が参列しました。

鈴木齊中学部部長の司式、河野和雄学院オルガニストによる奏楽のもと、北見さとみ中高部聖書科教諭による聖書朗読、祈禱が行われたのち、永眠された方々のお名前が読み上げられ、中高部合唱部がフォーレ作曲「レクイエム」のうち「ビエ・イエズ」「天国にて」を歌いました。三上章大学宗教主任が「サラの死を悼むアブラハム」と題して説教を行い、学院からは池田守男理事長・院長、同窓会からは松本幸恵同窓会会長が挨拶しました。

礼拝後にはお茶の会にご遺族の方を迎え、学院関係者とともに故人の思い出を語る時を持ちました。



訃報

一心より哀悼の意を表しますー

寺本 正子氏  
元小学科教諭  
1997年2月10日  
高木 栄作氏  
前人間科学部学部長  
2011年3月31日  
真々田 肇氏  
元中高部・大学院事務長  
2011年4月16日

学院史料展示コーナー 女優・演出家 長岡 輝子 一神とともにー

学院史料展示コーナーでは、昨年10月に102歳で亡くなった長岡輝子さんの展示を行っています。1925(大正14)年に東洋英和女学校を卒業した長岡輝子さんは、在校当時から自作の聖書劇を上演するなど注目を集める存在でした。演出家として女優として活躍し、NHK連続テレビ小説「おしん」の大奥様役で一躍全国に名を広めました。常に変わらぬ神への信仰を持ちながら生きたその足跡をたどります。

展示期間：2012年3月下旬まで  
展示場所：六本木校地 本部・大学院棟 1階ロビー  
見学可能な時間：日曜、祝日以外の本部・大学院棟開館時間内  
お問い合わせ先：〒106-8507 港区六本木5-14-40  
TEL 03-3583-3166 法人事務局 史料室



史料室レター ⑤ 軽井沢にあった西洋の先生のコテージ

軽井沢にミス・ハミルトンのコテージ(別荘)が建っていたというニュースが入ったのは去年のことでした。

今年はミス・ブラックモアのブルックサイド・コテージの跡地に案内していただくことができました。こちらは万平ホテルにほど近い閑静な別荘地の中の大きな敷地で、脇に小川(ブルック)が流れ奥の方は小高くなっているようでした。当時、夏休みに家に帰れない寮生たち十数名はここで二、三人の西洋の先生方と涼しく楽しい夏を過ごしたと『東洋英和女学校五十年史』のエッセイにあります。沢筋では声がよく響くので、戸外で礼拝を守り讃美歌を歌うと、歌声が美しく周囲に流れていったことでしょう。1923

年関東大震災で社会福祉施設興望館が焼失したとき、ミス・ブラックモアはこの土地の半分を売却して代金の全額を寄付し、資金援助をしたそうです。現在はその後に建てられたヴォーリズの設計による別荘がありますが、倒木が道をふさぎ雑草が生い茂っていて人が出入りしていないことを示していました。東洋英和ゆかりの地とはいえ、今はその痕跡すら残らず、時の流れを感じるばかりでした。

一方のミス・ハミルトンのコテージは所有者のご厚意で維持・管理されています。この「楓園」と同時発行の「史料室だより No.77」で特集し、ご紹介をしています。

ホームページのお知らせ

学院ホームページの「学院刊行物」のページがこの4月よりリニューアルされ、「史料室」のご案内、「史料室だより」の紹介が見やすくなっているのに気がつかれましたか。創刊号から最新号まで「史料室だより」バックナンバーの目録も入りましたので、検索によるバックナンバーの活用が期待できるようになりました。ご覧になってみてください。(No.65以降最新号まで、内容をホームページ上で読むことができます)

「史料室だより」バックナンバー整理のお知らせ

在庫の古いバックナンバー (No.8～No.62) を整理いたします。ご希望の方は史料室にお問い合わせください。  
(E-mail:archive@toyoeiwa.ac.jp Tel:03-3583-3166)



ミス・ブラックモアのブルックサイド・コテージがあった場所を訪れました

聞く耳、見る目、主がこの両方を造られた。

箴言 二〇章十二節



近代の幼児教育の方法の基本はできるだけ感覚器官を事物に触れさせて、その感覚の経験を基に知識を授ける方法である。これは近代教育学の父と呼ばれているコメニウスの教授方法で『世界図絵』は小学校の教科書となった。それは神が創造した自然世界を認識し、そこに神の足跡（作品）を発見させるためであった。聖書と共に自然は神が書かれた第二の書物であると考えられていたからである。この書物を正しく読むために、神は「聞く耳」や「見る目」をお与えになったと解釈できる。聖書を読んで、神の素晴らしさを発見するとともに、自然世界を感覚器官（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）のすべてを使って生き生きと認識し、創造者である神を賛美することができるのである。

大学宗教主任 吉岡 良昌

受賞歴多数の実力派！大学の食堂を訪ねました。

夏のある日の東京ビッグサイト。「GOOD DESIGN EXPO 2011」が開催され、そのうちの「デザインによる教育・人材育成」というカテゴリーで大学の食堂リニューアルプロジェクトが第一選考を通過しました。

食堂は昨年の八月にリニューアルしたのですが、今までに環境色彩コンペティション「グッド・ペインティング・カラー改修部門特別賞」、さらにはサイン等のデザインを審査するSDA賞入賞・関東地区賞も受賞しています。

リニューアルのコンセプトである「EYE TO EYE」の立案から具体的な改修項目・仕上げ材の選定まで、大学の清楓会と竹中工務店との十回にわたるワークショップ

から生まれたのが今の食堂とのこと。百開は一見に如かず、実際に食堂を訪問です。

\*

一目見て、以前の食堂との雰囲気の違いに驚きます。やわらかい光の中、白とガーネットの配色が引き立ちます。学生に話を聞くと、去年の夏休みが明けて食堂に来たら「何！このあふれる高級感は！」とうれい歓声が上がったそうです。ソファはゆっくり寛ぐこともできる人気席で、静かに一人過ごしたい時のカウンター席もお勧めとのこと。食事もあることながら友人との待ち合わせ、授業の合間の自習などにも使われ学生達に親しまれています。食堂は心地よい居場所として英和生の毎日を楽しみ彩っています。

流れるように壁に描かれている文字を見ると「風にそよぐ…」、英和の校歌です！



学生参加のプロジェクトがグッドデザインとして評価されました



お昼には学生達でいっぱいです。食事に、勉強、友達のおしゃべり…学生達が食堂で過ごす時間も増えたそうです



# 英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.26

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



ハナミズキ (横浜キャンパス)

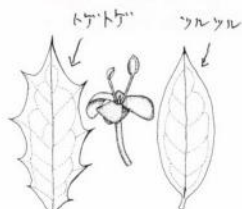
## ハナミズキ (花水木)

またの名をアメリカヤマボウシとも呼ぶ。春に白色や淡紅色の花を咲かせ、キャンパス内がぱっと明るくなる。秋深まる頃には枝先に楕円体で光沢のある真赤な実と、ソロバン玉のような形をした花芽を付け、また、葉は紅葉する。実、花芽、紅葉と冬のキャンパスに彩りを添える。

近縁のヤマボウシ(キャンパス内にはないが隣接地にはある)の実を食べるおいしいが、一見おいしそうに見えるハナミズキは食べることはない。しかし、かつての子ども達は、ハナミズキの枝が二又に分かれる性質を利用して、やじろべえを作って遊んだ。



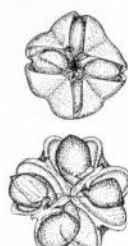
ノコンギク  
この時期の青紫色の花はうれしい。



ヒヤラギ  
花は純白で香りにうっとり。葉には2形あり。



シラカシ  
緑色の葉のもとで芽は大きくなっている。



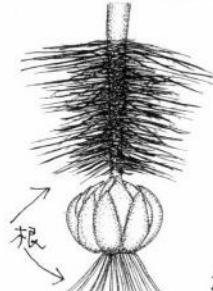
マユミ  
紅色のタネの面を置かすてき。



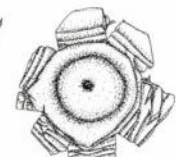
ハキゲメギク  
目を近づければ花びら、腺毛など楽しさ一歩先。



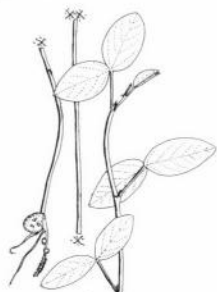
クマワラビ  
この時期、胎子のう群の付く葉が、花れる。



ヤマユリ  
鱗茎の上と下に根を持つ不思議。



エリマツチガキ  
おもしろい形のキノコを見つけると嬉しい。



カラスノエンドウ  
もう春にそなたを茎が伸びている。

宣教師の先生方への感謝を込めて  
カナダに桜を贈りましょう!

### 〈桜プロジェクト〉ご案内

『カナダ婦人宣教師物語』刊行から1年、英訳本『カナダ婦人宣教師物語』も近々刊行予定の中、ミス・カートメルを遺わしてくださったセンチナリーチャーチのあるオンタリオ州ハミルトン市に桜をお贈りし、感謝と友好の絆として永く記念していくことを目指す〈桜プロジェクト〉が有志によりスタートしています。

#### 桜プロジェクト募金も実施中!!

郵便局口座名称：桜プロジェクト  
郵便局口座記号番号：00220-0-70086

詳しくは同窓会ホームページトピックス  
[http://www.toyoeiwa.ac.jp/dousoukai/sakura\\_project.html](http://www.toyoeiwa.ac.jp/dousoukai/sakura_project.html)をご覧ください。

### 東洋英和女学院学院報 楓園 第66号

発行日：2011年11月10日  
編集：広報委員会  
発行：学校法人 東洋英和女学院  
東京都港区六本木 5-14-40  
TEL 03-3583-3325  
メールアドレス  
koho@toyoeiwa.ac.jp  
ホームページアドレス  
<http://www.toyoeiwa.ac.jp>

- 東洋英和女学院では学院各部におきまして、以下の日程でクリスマス礼拝・関連行事を行います。(青字の行事は一般公開です)
- 東洋英和幼稚園**
- ★12月7日(水) 母の会・つばみ会 アドヴェント礼拝・祝会  
説教者 吾妻國年 副院長
  - ★12月14日(水) 幼稚園(母子) アドヴェント礼拝
- 小学部**
- ★11月28日(月) アドヴェントを迎える会
  - ★12月1日(木) 母の会クリスマス礼拝
  - ★12月10日(土) むかえようクリスマス  
14時より小学部講堂にて  
(室内履きをご利用ください。四歳未満のお子様の入場や途中での入退場はご遠慮ください)
  - ★12月20日(火) 小学部クリスマス礼拝
- 中高部**
- ★12月9日(金) 母の会クリスマス礼拝  
説教者 塩谷直也 牧師  
(青山学院大学法学部准教授・大学宗教主任)
  - ★12月10日(土) クリスマス音楽会  
13時、15時より 新マーガレット・クレイグ記念講堂にて9月、11月の学校説明会でアンケートを提出された方に案内状をお送りします)
  - ★12月20日(火) 中学部クリスマス礼拝  
高等部クリスマス礼拝
- 大学**
- ★11月18日(金) チャペルコンサート  
演奏 岩崎真実子氏(オルガン)  
17時30分開演 18時10分開演
  - ★11月30日(水) アドヴェント夕礼拝  
司式・説教 吉岡良昌 大学宗教主任
  - ★12月10分開演 18時10分開演
  - ★12月19日(月) クリスマス礼拝  
説教 村上陽一郎 学長  
司式 三上章 大学宗教主任  
18時10分開演
- 大学付属かえで幼稚園**  
(横浜校地礼拝堂にて。すべて入場無料予約不要です)
- ★12月16日(金) 三歳児クリスマス礼拝 9時30分より
  - ★12月20日(火・21日) 水 四・五歳児クリスマス礼拝 16時45分より
  - ★12月22日(木) 小学生・中高生クリスマス礼拝 15時30分より
- 全学院**
- ★12月2日(金) クリスマス礼拝(全学院教職員対象)
- 同窓会**
- ★12月3日(土) クリスマス礼拝  
13時30分より 六本木校地中高部  
新マーガレット・クレイグ記念講堂  
説教者 吉岡康子先生  
(東一九七九年卒 日本基督教団 吉祥寺教会牧師  
青山学院女子短期大学宗教主任)
- それぞれ詳細につきましては、各部におたずねください。

クリスマス行事のお知らせ